

実需者ニーズに対応する ユーカリ生産基盤の確立

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

現在、東近江管内では、京都の花き卸売市場へ向けたユーカリ栽培を推進しています（令和6年度現在 50 戸 200a）。ユーカリはブライダル需要以外にも、グリーンの組花素材として成人式、卒業シーズン、母の日等に大きな需要があります。多くの産地がブライダル需要へと向かう中、当管内は成人式から卒業シーズン等の厳冬期出荷の強化を図ってきました。しかし、近年はこれに留まらず、サブスク等のホームユース需要へとすそ野が広がり、さらに伸びています。この大きく伸びる需要を取り込み、産地強化へと繋げるため、生産者の組織化を図り、実需者ニーズに対応できる生産基盤の確立に取り組みました。

【普及活動の内容】

実需者ニーズに対応できる生産出荷体制の確立に向け、管内生産者の組織化を進めました。また、ユーカリの需要動向や県外他産地の生産状況、東近江産ユーカリの品質評価を把握するため、市場を訪問し情報交換に努めました。併せて、当センターと市場、JAでは場を巡回して生育状況を共有し、出荷期拡大やサブスク出荷等に向けた意見交換を行いました。さらに、実需者や市場と連携し、通常出荷とは異なるサブスク出荷の規格や品質について技術支援を行いました。



写真1 ユーカリ生育状況の確認

【普及活動の成果】

東近江管内の関係団体とユーカリ生産者（50 名）が一体となって、実需者ニーズに柔軟に対応する研究を行う「東近江地域枝物研究会」を設立しました。また、主力品種パルブラの性質（扱いやすさ）を市場との情報交換により実需者へ周知でき、サブスクへ採用されました。サブスク注文が多数入り、その厳しい品質基準は、当初、生産者に戸惑いがあったものの、研究会や市場、実需者と連携した技術支援で解決し、順調に出荷されました。

◎対象者の意見

品質基準は厳しいものの、従来廃棄していた短い切り枝を決められた価格と数量で受注できるため大変ありがたい。（生産者 K 氏）